

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	准教授	新實 広記
最終学歴	学 位	専 門 分 野
愛知教育大学大学院教育学研究科 芸術教育専攻修士課程	修士 (学術)	図画工作・造形

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

教育学部学生が将来、小学校教諭・保育者(幼稚園教諭及び保育士)となり、質の高い教育、保育活動を教諭として行えるように養成することが目標である。そのためには、養成段階で自らの得意分野はさらに伸ばせるようにサポートしながら、苦手意識や不安をもつ分野に関しては、克服できるように授業内容などを工夫したい。また、将来、小学校教諭・保育者(幼稚園教諭及び保育士)として、実践力を自ら育てていくことができる力を育成することが重要であると考えている。

教育学部では、教育、保育現場での体験的な学びを重視して、「サービス・ラーニング」を2014年度から立ち上げてきたが担当する図画工作・造形の授業においては、図画工作、造形の楽しみを、体験を通して伝えていきたい。担当科目の事後学習として、造形・図画工作科目と「サービス・ラーニング」実習を組み合わせ、大学での学びと子どもを前にした教育現場での学びで各学生の課題発見が効果的にできると考えている。

学生が将来教育、保育現場で自らの課題を見つけ、改善していく実践力を身につけることが重要であると考えている。それは「真に信頼して事を任せうる人格の育成」と一致する目標である。

(計画)

- ・教育、保育現場における実践例を多く紹介して、具体的に教育者、保育者の姿をイメージできる様にする。
- ・保育、教育現場の多様な課題や価値観を把握できるように、様々な事例を紹介する。
- ・「サービス・ラーニング」実習先のさらなる確保や他の教科との連携を図り「サービス・ラーニング」を活用した教育プログラムの整備を行う。
- ・教育、保育現場での子どもたちを前にした実践的な授業を重視し、学内外において地域向けの造形ワークショップなどを実施して、実践力を高める。

○担当科目(前期・後期)

(前期)

基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、図画工作科教育法、サービス・ラーニング実習Ⅰ、

(後期)

基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究、図画工作、幼児と造形表現、総合表現技術、サービス・ラーニング実習Ⅱ

○教育方法の実践

ゼミ演習や総合表現技術では、近隣の幼稚園と連携して、学生に実践的な学びの機会を提供することができた。また、造形・図画工作の授業では、グループワークを多く取り入れ、意見を出し合う時間を増やし多様な意見を認め合うことを重視した授業づくりに取り組んだ。また、図画工作科教育法では、

愛知県の現役小学校校長先生をゲストスピーカーにお招きして、図画工作の鑑賞授業の実践と授業づくりの方法や教育現場の課題をお話いただいた。授業を通して学んだ知識や技術が、教育現場をリアルに感じることでより深い理解につながるように工夫した。

○作成した教科書・教材

- ・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第5版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2020(令和2)年3月
- ・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2019(平成31)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2018(平成30)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第3版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2017(平成29)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第2版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2016(平成28)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第1版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2015(平成27)年3月

○自己評価

学生による授業評価アンケートの結果では、今年度も事前事後学習の項目が他の項目に比べ評価は低かった。しかしながら昨年度から図工室を開放するシステムを整えたことで、実習前の造形活動の準備や模擬授業の準備をする学生が増え始めている。授業の予習復習だけでなく学生が主体的に取り組める学習の時間は図工室を開放することで増えているため、今後も学生が主体的に取り組めるような環境づくりを試みたい。今後は事前事後学習する学生としない学生の差が出ないように、具体的な事前事後学習の方法を示すよう工夫していきたい。

大学近隣の幼稚園と連携した授業や教育現場教員によるゲストスピーカーでは、学生が日頃の学びを教育現場でどのように生かしていくことができるのかを振り返る良い機会となったことが、アンケートや事後レポートで確認できた。学生が保育・教育現場での実践力を身につけられるように、地域の幼稚園や保育園、小学校と連携して、今後も学生が主体になって学べる環境づくりに力を入れていきたい。

II 研究活動

○研究課題

- ・「子ども主体の造形活動」に重点を置いた教育プログラムの開発と実践的研究
- ・「開かれた創造環境のデザイン」を通して
- ・子どもの造形、図画工作における（教材・題材）研究とその意義

○目標・計画

（目標）

「芸術や美術」が果たして人間にとってどのような意義があるのかを根源的に捉える研究を継続的に進めていきたいと考えている。一つは、「子ども主体の造形活動」に重点を置いた教育プロ

グラムの開発と実践的研究で、二つ目は、「開かれた創造環境のデザインを通して」をテーマに、子どもの感覚や心が世界に向かって開かれていく造形活動の創造的「環境デザイン」の研究である。三つ目は、子どもの造形、図画工作における（教材・題材）研究を通してその意義を明示することである。

また、美術教育の理論及び実践の研究を深めていき、実践事例に基づいた指導案や図版、動画記録等を実践集としてまとめ、保育・幼児教育の現場に頒布することで、その知見と開発した方法論を提供していくことをかんがえている。そして、「美術」の教育的意義や子どもの発達段階に応じた実践の視点を具体的に明示することにより、美術教育が重要な学問であることを伝えていくことを目標とする。また、幼・保・小・中の教育現場へ授業プログラムとして提供できるように論文の執筆や指導実践にも取り組む。

(計画)

- ・小学校教諭、保育者養成における図画工作、造形表現関係科目の造形に関する教材、題材、技法、造形表現活動の意義についてこれまでの研究成果を論文にまとめる。
- ・現在執筆中の図画工作科教育法の教科書(萌文書林) 共著 の完成をする。
- ・図画工作科の鑑賞学習の意義を明らかにするために、小学校の校舎を美術館にする「スクールミュージアム」を継続して行う。
- ・日本美術教育学会大会誌編集委員を継続して行う。
- ・造形教育の研究会、研修会を開催する。
- ・2015年度から継続している地域創造研究所の「サービス・ラーニング」の共同研究を行う。
- ・「環境と彫刻」をテーマに様々な実践的研究を継続的に行って、彫刻表現の可能性を探る作品制作と展示を行う。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・樋口一成 新實広記 他『小学校図画工作の基礎 造形的な見方や考え方を働かせる学び』共著 萌文書林 第3章 版画 4.版を用いた表現④-スチレン版画 pp76-77 第5章デザイン・映像メディア表現 12. モダンテクニックとその活用 pp128-129 13. モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp130-131 第6章 18 モザイクで表す pp186-187 2020(令和2年)1月
- ・新野貴則 福岡知子 新實広記 他 『図画工作科教育法 明日の小学校教諭を目指して 子供の資質・能力を育む』共著 萌文書林 第4章 図画工作科の実践事例 14. 中学年 立体に表す活動②pp158-161 図画工作科で用いる材料や技法 4. 木で表す(木材の加工法と用具) pp236-237 8. 版で表す pp241 10. 様々な接着剤、接着テープの性質 pp244-pp245 2019(令和元年)8月
- ・『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』共著第5章 幼稚園・小学校におけるサービス・ラーニング(新實 広記) 唯学書房 2019(平成31年)2月
- ・樋口一成 新實広記 他 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』共著 萌文書林 第3章 幼児の造形教育の教材-材料や技法の基礎理解「版画①」版の種類や用具の使い方 pp. 68-69 第4章 幼児造形教育への実践-大学での実技体験や教育現場での実践例「コラージュ」pp. 130-131、「ゴム版をつくろう」 pp. 156-157、「木を切る・打つことからの展開」 pp. 166-167、「共同での制作-ものづくり交流の教材実践」 pp. 200-201 2018(平成30年)11月
- ・大橋功 松岡宏明 新實広記 他 『美術教育概論(新訂版)』共著 日本文教出版 第Ⅱ部 第7章 幼児造形表現指導の計画と実践 pp84-89 2018(平成30年)10月
- ・辻泰秀 新實広記 他 『造形教育の手法 えがく・つくる・みる』共著 萌文書林 第3章 「版

画」スチレン版画 pp. 66-67 第5章「デザイン・映像メディア表現」 モダンテクニックとその活用 pp. 118-119 モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp.120-121 モザイクで表す pp.170-171 2017 (平成 28)年 3 月

- ・辻泰秀 新實広記 他 『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』共著 萌文書林 第3章 「幼児の造形教育の教材-材料や技法の基礎理解」 pp. 68-69 第4章 「幼児造形教育への実践 -大学での実技体験や教育現場での実践」 pp. 126-127 pp.148-149 pp.158-159 pp.194-195 2013 (平成 26)年 4 月

(学術論文)

- ・古市久子、新實広記、矢内淑子、伊藤数馬、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 III -造形表現の授業の分析を通して -東邦学誌 第46巻第1号 2017(平成 29)年 6 月 10 日 発刊
- ・辻泰秀、早矢仕晶子、新實広記、江村和彦「造形教育における美術鑑賞の指導法 (2)」-「学校美術館」でのギャラリー・トークの方法-岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第65巻 第2号 2017(平成 29)年 3 月
- ・古市久子、矢内淑子、伊藤数馬、新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 II -授業実践を通して -」東邦学誌 第45巻第2号 2016(平成 28)年 12 月 発行
- ・古市久子、矢内淑子、新實広記、伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 I -保育実践教科書を分析する-」東邦学誌 第44巻第2号 2015(平成 27)年 12 月 発行
- ・新實広記「保育者養成課程における地域連携を活用した造形表現科目の授業改善」-保育実践力の育成を目指した取り組み- 東邦学誌 第43巻1号 2014(平成 26)年 6 月 発行
- ・新實広記、藤重育子、西濱由有、矢藤誠慈郎「保育者養成課程における表現関係科目の教育内容に関する研究(2)」東邦学誌 第41巻2号 2012(平成 24)年 12 月 発行
- ・辻泰秀・清水英樹・新實広記・林和貴子「地域における『学校美術館』の実践(1) -『学校美術館』の意義と実践事例-」岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 第15巻 2012(平成 24)年 3 月
- ・新實広記、藤重育子、西濱由有、矢藤誠慈郎「保育者養成課程における表現関係科目の教育内容に関する研究(1)」東邦学誌 第41巻2号 2012(平成 24)年 12 月 発行

(学会発表)

- ・新實広記、水谷誠孝 平成 30 年度全国保育士養成セミナー 中部ブロック独自企画 ワークショップ「さまざまな素材を写して遊ぶ版画」
一般社団法人全国保育士養成協議会主催 2018(平成 30)年 9 月 16 日
- ・山田唯仁、辻泰秀、新實広記「学校美術館」鑑賞教育プロジェクト2-作品・アーティスト・子どもをつなぐ活動- 美術科教育学会 2017(平成 29)年 3 月 28 日
- ・新實広記「世界子ども絵画展の可能性」ものづくり教育会議 日本美術教育学会東海地区研究会 ポスター発表 2015(平成 27)年 12 月
- ・新實広記「大学・学校・園・美術館との連携による学校美術館と造形ワークショップの実践」2015(平成 27)年 11 月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
- ・新實広記 公開授業 II アーティストによる造形ワークショップ 2015(平成 27)年 11 月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
- ・新實広記 公開授業 I「学校美術館」アーティストによるギャラリートーク 2015(平成 27)年 11

月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟

- ・新實広記「ガラス廃棄便を生かした造形教育活動の可能性」口頭発表 ものづくり教育会議 2014(平成26)年11月
- ・「学校美術館」の可能性 ポスター発表 大学美術教育学会 辻泰秀、山本政幸、新實広記 2013(平成25)年10月13日

(特許)

なし

(その他)

<報告書>

- ・「てのこぼあそび、つくる、育ちの日々」ものづくり教育会議 vol.4 2019(平成31)年7月
- ・「てのこぼあそび、つくる、育ちの日々」ものづくり教育会議 vol.3 2018(平成29)年7月
- ・「てのこぼあそび、つくる、育ちの日々」ものづくり教育会議 vol.2 2017(平成29)年7月
- ・今津孝次郎、新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」 東邦学誌 第44巻第1号 2015(平成27)年6月
- ・新實広記「ガラス廃棄瓶を使用した教材研究—小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み—」ものづくり教育研究 NO.5 ものづくり教育会議 2014(平成26)年3月
- ・新實広記「保育者養成校における地域連携事業—小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み—」ものづくり教育研究 NO.4 ものづくり教育会議 2013(平成25)年3月
- ・新實広記「大人と子どもが共に学ぶワークショップ」ものづくり教育研究 NO.3 ものづくり教育会議 2012(平成24)年3月

<主要作品発表>

- ・新實広記「itoten」グループ展 2019年11月 横浜赤れんが倉庫館1号館/横浜・神奈川県
- ・新實広記「次代を担うとよたのアーティストたち展」グループ展 2019年8月
豊田市民文化会館 展示室A
- ・新實広記「Vessel」コミッションワーク 野外彫刻 2019年1月
PARK FRONT 香椎照葉 /東区・福岡
- ・新實広記「itoten」グループ展 2018年10月代官山ヒルサイドテラス/代官山・東京
- ・新實広記「第7回 現代ガラス展 in 山陽小野田」土屋良雄審査員賞 2018年7月
山口県立萩美術館 / 山口
- ・新實広記「VESSEL-光のうつわ-」個展 2018年7月 豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
- ・新實広記「光の図形」個展 2018年4月 masayoshi suzuki gallery / 岡崎・愛知
- ・新實広記「十人十色 ガラスの展覧会 Vol.5〜伊賀秋色〜 イートーテン」 2017年11月 史跡旧崇広堂 /伊賀市
- ・新實広記 「十人十色ガラスの展覧会 〜黒壁秋色〜 イートーテン」2017年10月 慶雲館 / 長浜市
- ・新實広記 「新實広記展-名づけられた光-」個展 2017年5月 Cassina ixc. DELL'ARTE Art Gallery/ 青山・東京
- ・新實広記 「BOX展-繋ぐ」日本建築美術工芸協会 優秀賞 2017年4月 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「現代ガラスの表現展」グループ企画展 2016(平成28)年12月 大一美術館 (愛知)
- ・新實広記 「第3回街に飛び出す作品展」2016(平成28)年10月 AACA 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「とよたルミアール・プロジェクト 新實広記展」個展 企画展 2016(平成28)年8月 豊田市役所東庁舎展示スペース (愛知)

- ・新實広記 「feeling in glass 感じとるかたち」グループ企画展 2016 (平成 28)年 4 月 富山市ガラス美術館 (富山)
- ・新實広記 「街なかミュゼ」中野哲学堂集合住宅コンペ野外彫刻採用 2016(平成 28)年 1 月 AACA 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「大手町 JX タワーホトリア広場野外彫刻設置」2015(平成 27)年 12 月 大手町 JX タワー (ホトリア広場)
- ・新實広記 「農村舞台アートプロジェクト」個展 平成 26 年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチ 2014(平成 26)年 8 月 (加塩町加塩神社農村舞台) 主催/豊田市・豊田市教育委員会 (財) 豊田市文化振興財団
- ・新實広記 「時の記憶 -美術展-」グループ展 2014(平成 26)年 2 月 知立市文化会館パティオ池鯉鮒
- ・新實広記 「ヒカリノカケラ」個展 2013(平成 25)年 5 月スペース AQUA
- ・新實広記 「Vessel」個展 企画展 2013(平成 25)年 4 月 Masayoshi Suzuki gallery
- ・新實広記 「ARTISTS FILE 04」グループ展 2012(平成 24)年 8 月 Masayoshi Suzuki gallery

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

- ・科学研究費助成事業研究分担者 基盤研究 (B) (一般) 申請
研究代表者 名古屋経済大学短期大学部 准教授 藤田雅也
研究課題名『みること』に重点を置いた保育・幼児教育のプログラム開発と実践的研究
研究期間 平成 29 年度～平成 30 年度) 不採択

○所属学会

日本美術教育学会、大学美術教育学会、日本保育学会、日本建築美術工芸協会、全国大学造形美術教育教員養成協議会、ものづくり教育会議

○自己評価

小学校教員養成における図画工作の基礎的な技法や授業づくりの研究成果を『小学校図画工作の基礎 造形的な見方や考え方を働かせる学び』共著 萌文書林に執筆してまとめることができた。また、小学校教員養成における図画工作の指導法のこれまでの研究成果や実践を『図画工作科教育法 明日の小学校教諭を目指して 子供の資質・能力を育む』共著 萌文書林に執筆してまとめることができた。また、毎年継続的に行っている小学校の空き教室を美術館にする「スクールミュージアム」の実施と鑑賞授業、現場小学校教諭と鑑賞学習の研究会を今年度も実施することができた。今後はこの成果をまとめ、美術の力、美術の鑑賞教育の可能性をより深く考察していきたい。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

委員会、学部での担当、ワーキンググループにおいて与えられた業務を的確に迅速に行って、円滑な運営に努めることはもとより、問題解決のための方法を常に考え、イノベーションを試みるよう努める。大学運営においては、学生との意見交換、教員と職員との連携が必要不可欠であり、教職員で情報や課題を共有し連携を大切にしながら学生が主体的に学ぶことのできる大学の運用方法を積極的に議論していきたい。

(計画)

教務委員会においては、2019 年度から始まる新カリキュラムの対応や改善、これまでの教務に関

する課題を学生や教職員からの意見も交え整理し改善を行いたい。また、学生の科目履修が分かりやすく、スムーズに行えるように履修の手引き、履修モデルなどの改善を行いたい。

○学内委員等

教務委員会委員、学術情報センター運営委員会委員、幼小教職委員会委員、
保育士養成課程委員会委員、大学講義室設備更新WG

○自己評価

教務委員会において、今年度から教育学部では新カリキュラムと旧カリキュラムが同時に開かれているため、時間割や授業運営、学生の履修などで問題点や課題が見つかった。教務課、教職支援課と連携して、2020年度に向けた改善策を考え、履修指導の工夫、時間割の作成、履修モデルの作成などを行うことができた。

他の委員会においても、与えられた業務を的確に迅速に行って、今年度も円滑な運営に努めることができた。今後も学生と向き合いながら、教員と職員との連携を大切にして、情報や課題を共有しながらより良い学生の環境づくりに貢献していきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

自らの専門知識を地域に還元し、教育現場や社会における多様な課題に積極的に取り組む。

(計画)

学内外において、研修会や研究会、教員免許更新講習を実施して教育現場の改善に貢献できるように取り組む。また、地域と連携した教育や「サービス・ラーニング」、高大連携授業を通して積極的に地域の教育活動に貢献する。また、これらの取り組みを社会に発信し、「真面目」な愛知東邦大学生を知っていただく機会を増やし、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を目指し愛知東邦大学と地域との連携をさらに深める。

○学会活動等

- ・ものづくり教育会議 会員（2012～現在） 会長（2018～）
- ・日本美術教育学会 会員（2010～現在） 大会編集委員（2010～）
- ・大学美術教育学会 会員（2010～現在）
- ・日本保育学会 会員（2012～現在）
- ・全国大学造形美術教育教員養成協議会（2015～現在） 事務局（2016～）

○地域連携・社会貢献等

- ・「津島市立高台寺小学校学校美術館プロジェクト」 作品展示・鑑賞教室・アーティストトーク 講師 2019(平成31)年12月 津島市立高台寺小学校
- ・おてら meets フェスティバル アールブリュット展示会 ギャラリートーク企画 2019(令和元年)10月
- ・教員免許状更新講習 選択領域6時間「幼児造形・図画工作研究」講師 2019(平成31)年8月
- ・愛知県私立幼稚園連盟2年目教員研修会 講師 2019(平成31)年6月29日
- ・教員免許状更新講習 選択領域6時間「幼児造形・図画工作研究」講師 2018(平成30)年8月
- ・「弥富市立十四山東部小学校学校美術館プロジェクト」 作品展示・鑑賞教室・アーティストトーク 講師 2018(平成30)年12月 弥富市立十四山東部小学校

・愛知県私立幼稚園連盟2年目教員研修会 講師 2018(平成30)年6月

○ 自己評価

今年度は、事務局を務める全国大学造形美術教育教員養成協議会の助成金を得て、「おてら meets フェスティバル アールブリュット展示会 ギャラリートーク」の企画を Aichi Artbrut Network Centert との共済で行うことができた。名古屋市西区の福祉事業所を中心に美術作品の出品依頼を行い、100点以上の作品を展示したアール・ブリュット展示会をお寺で実施した。作品の展示では、今後も事業所主体で持続して展示会が開催できるように、各事業所職員、作家家族が中心となり展示を行い、展示方法などを学芸員から助言をもらいながら行われた。身近で作家を知っている人が展示を行ったため、その生の魅力を発信できるような展示となった。ギャラリートークでは、高浜市やきもの里かわら美術館主任学芸員の今泉岳大氏と障害者支援施設藤花荘職員の江原亮氏にアール・ブリュットにまつわる歴史や展示作品の背景、魅力をお話いただいた。

お寺という地域に根付いたコミュニティーを掛け合わせることで、今まで関わったことのない方も障害者の美術芸術に触れる機会となり、普及啓発につながることができた。

これまで行ってきた造形表現指導の研究成果を今後も生かして地域の保育や教育現場の多様な課題と向き合い、造形表現活動の意義とその可能性を研究していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・とよしん育英財団教育文化奨励賞 とよしん育英財団 2019(平成31)年3月28日
- ・「第7回 現代ガラス展 in 山陽小野田」土屋良雄審査員賞
山口県立萩美術館 / 山口 2018(平成29)年7月
- ・「BOX 展-繋ぐ」日本建築美術工芸協会 優秀賞 建築会館 / 東京 2017(平成28)年4月

本学学生に向き合いながら、教職員と共により良い学びの教育環境が整えられるように、カリキュラムマネジメントを行いたい。学生が主体的にそれぞれの関心にしたがって学びを楽しみ、それぞれの課題を発見し追求していけるような、学びのキャンパスを目指し、「オンリーワンを一人にひとつ」持てるようにサポートしたい。

そして専門分野においては、研究の成果として明らかになった「美術」の教育的意義を論文や著書などで具体的に明示し、美術教育全体の発展へとつなげていくことを目指す。

VI 総括

今年度は、これまでの研究成果を共著で著書2冊にまとめられた。今後も小学校や保育現場において実践的研究を進め、美術教育の理論及び実践の研究を深めていき、実践事例に基づいた指導案や図版、実践集としてまとめていきたい。

また、教育活動においては、教育現場との連携を重視して、学生がリアルに教育現場を体験し主体的に取り組める教授方法、環境整備を工夫し実行することができた。その結果、学生のアンケートや事後レポートからも保育実践力を身につけるためには、自らが考え主体的に動くことの大切さが体験を通して理解することができたようだ。

しかしながら、今年度も授業評価アンケートの結果からは、「事前事後学習の改善」に取り組んだ学生とそうでない学生の差が大きく出てしまった。今後は、より具体的な事前事後学習の方法を示していくと共に、保育現場や小学校と連携して事前事後学習の場に組み合わせることも工夫していきたい。

教務委員会では、教育学部の新カリキュラム開始に伴い、様々な課題の改善が求められたが、共に働く教職員の助けを得て迅速かつ的確に業務を行うことができた。

今後も、共に働く教職員と共に学び成長する学生に「感謝」して、学生のより良い教育環境の整備と大学教育全体の発展へとつなげていくことを目標に努力していきたい。

以上